

デジタル空間社会の基盤としての ベース・レジストリに関する 政府の取組



2021-01-14

内閣官房 政府CIO上席補佐官

平本 健二

データ戦略

- 2020年12月データ戦略タスクフォース第一次取りまとめを決定。
- 2021年夏に向け、さらなる検討と具体化を取りまとめ予定。

喫緊に取り組むポイント

- ベース・レジストリの整備
- その他公共データの整備
- プラットフォームの整備
- トラストの構築

引き続き取り組むポイント

- データ利活用の環境整備
- インフラストラクチャーの整備
- 国際連携
- 人材

- 2025年までに基盤を整備し、2030年までにデータ等の環境を整備
 - データ整備はコストと時間がかかる。システム更改などのタイミングで順次実施するため長期計画としている。

世界各国も2030年をターゲットにしており、2030年にグローバルなデータ社会ができる見込み。
日本もその中の主要プレイヤーになることを目指す。

ベース・レジストリとはなにか

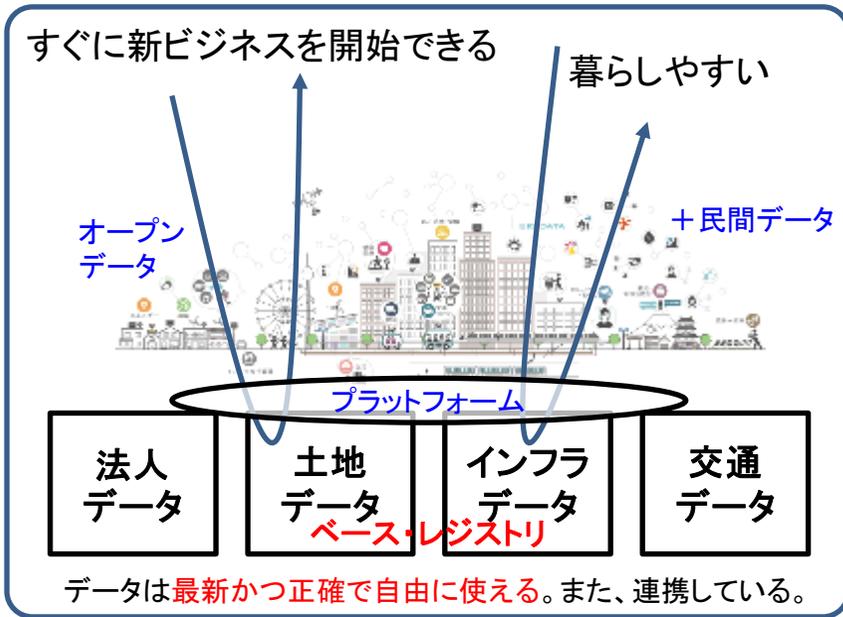
- 「ベース・レジストリとは、公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される、人、法人、土地、建物、資格等の社会の基本データ」であり、正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベース。日本では台帳等が相当する場合が多い。(オープンとクローズのデータが有りアクセス制御される)
- 全ての社会活動の土台であり、デジタル社会における必須の環境。
- ベース・レジストリの有無が、国の競争力を左右する。
- AIやドローン等にはデータが必要。これらの最新のデジタルテクノロジーを活用する基盤をベース・レジストリが担う。



なぜそれほど重要なのか

- 先進技術で使われるデータが安価に安定的に供給される持続可能なエコシステムが重要。社会の基本データは、デジタル時代のインフラであり、地力(ポテンシャル)である。
- デジタル先進国は、行政サービス高度化とスマートシティに欠かせないものとして、ベース・レジストリ(台帳類)を重視している。

ベース・レジストリが整備済みの国・都市



ベース・レジストリの整備が遅れている国・都市



人や企業、投資は、より魅力的な場所へ移動

- サービス等は外部のものを導入することができるが、各組織のデータは自力で整備するしかない。
 - 50年後、100年後のデジタル社会を展望したデジタル社会の基盤として、エストニアは20年、デンマーク、オランダは10年以上かけて整備している。

サービス、技術が経済のエコシステムを回すエンジンであり、データが燃料。ベース・レジストリはその中核。

参考：先進各国のベース・レジストリの対象

■ 法人、土地、不動産、施設を、ベース・レジストリにしている国が多い。

	個人	外国人	法人	事業場	土地	不動産	住所	地図等	地下	道路	水と気候	自動車	運転免許	資格免許	法律	判例	収入・税	施設	政府機関	学校	病院	刑務所	学生	労働者	公文書	年金	犯罪歴	物品	医薬品	有害危険物	営業許可
EC					○										○	○															
デンマーク	○		○		○	○	○	○		○	○																				
オランダ	○	○	○		○	○	○	○	○			○					○														
チェコ	○		○			○	○	○							○																
スロバキア	○		○		○	○	○					○					○						○	○	○	○	○				
エストニア	○		○		○							○	○																		
英国	○		○		○	○	○					○							○	○		○									
米国	※	○		○			※					○	○	○				○										○	○	○	
韓国	○		○		○	○	○																								
中国	○		○		○			○																							○
シンガポール	○		○		○	○		○				○									○										
インド	○		○		○	○						○	○				○				○	○									

※：米国はSSN ※：米国はNAD
 法人には、店舗等の事業場を含む場合が多い

■ 公開範囲、データ項目などはデータベース毎に異なる。

ベースレジストリの実現ポイント

- 最大の効果を得るため、データ標準、ルール、品質の3点が必要である。

データ標準

データ収集から蓄積データの内部活用、データ連携、オープンデータまで、一貫した標準を使うことで、現場の負荷、コストを下げ、品質を向上させる。

主なデータ標準

- 様式等のテンプレートレベルの標準(申請書等)
- 様式内のデータ項目レベルの標準(日付等)
- 項目レベルの表記(2020-10-23等)
- ヨミガナ、ローマ字を含む文字の扱い
- センサーデータ等の数値データの扱い

ルール

データ管理に関する理念を法律等で明確化し、個別制度との調整コストをなくすとともに、迅速に社会へ定着させる。

先進各国の主な重要ルール

- ベースレジストリのデータが紙と同等と定義
- 部門横断でのデータ共有原則を正式に定義
- ベースレジストリの有無を法律策定時に確認
- 相互連携の共通インフラでベースレジストリのデータを使うと定義

品質

可視化する等、データの正確性や最新性の確保することで、社会活動を支え、データ活用場面でのエラーや事故を防ぐ。

評価イメージ

- データ本体の評価(ISO25012)
 - ○ データ: 最新性 ■ 正確性 ■ 網羅性 ■
- データの流れの評価(ISO25024)
 - ☆ ☆ データ: 入力 ■ 蓄積 ■ 出力 ■
- データがバネンスの評価(ISO8000)
 - △ △ データ: 計画 ■ 体制 ■

